

## 2 廿日市市大野筏津地区の まちづくりの概要

### ●まちづくりの経緯及び現況

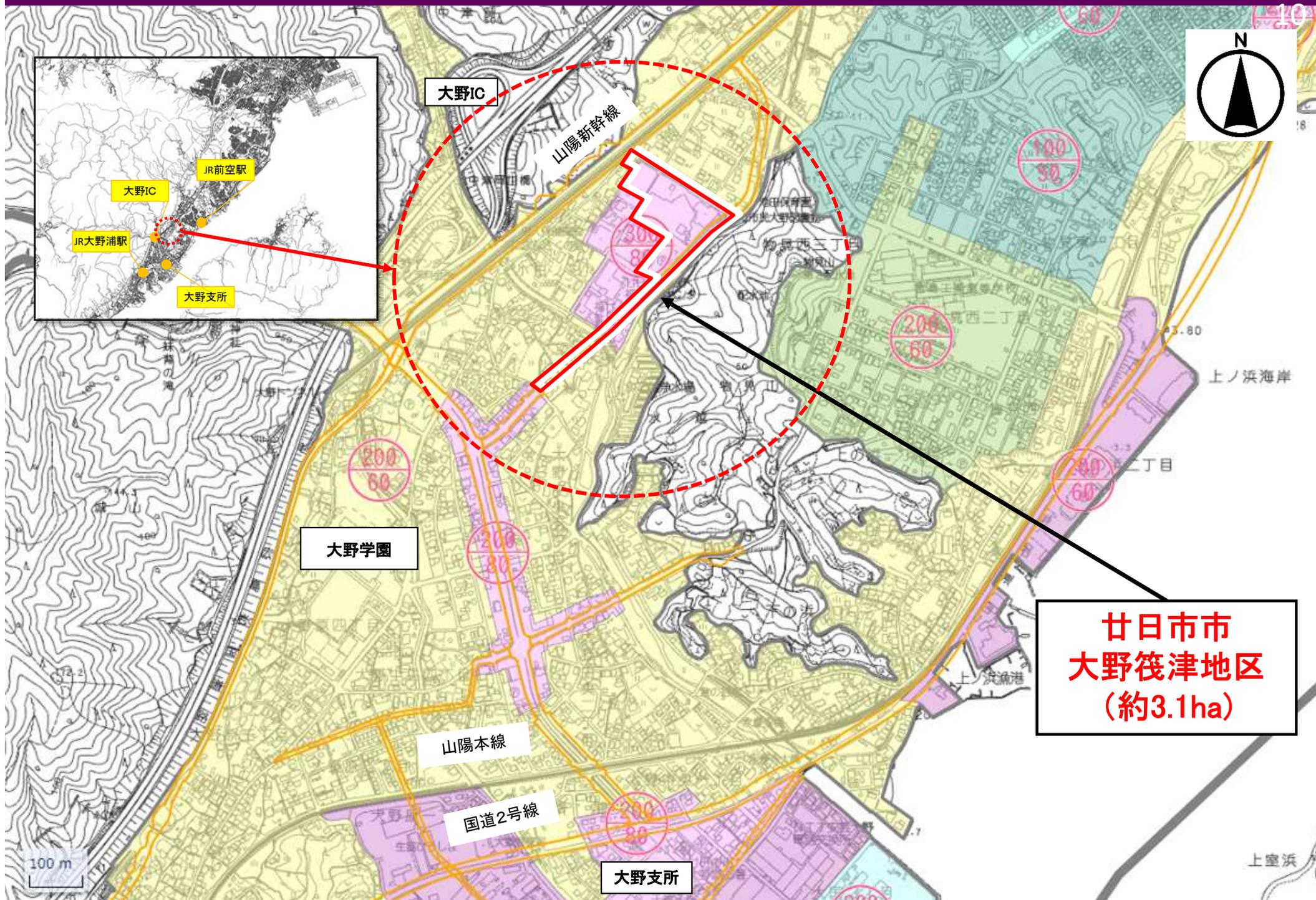
- 当地区を含む本市西部地域は、本市沿岸部の西部に位置する旧大野町役場のあった地域であり、古くから大野地域の中心的役割を果たしてきた。国道2号とJR山陽本線が平行して走っており、これらに沿って中小規模の住宅団地などの住居系市街地、沿道商業地、臨海部の工業地など、多様な用途の市街地が形成されている。市全体の人口が減少傾向にある中、大野地域の人口は土地区画整理事業や民間主体の小規模開発により、平成23年度から増加傾向であり、15歳未満人口についても、増加している。
- 当地区は、市民センター、体育館、図書館及び福祉保健センターが順次整備され、大野地域の市民活動と文化を支える拠点として長く市民に親しまれてきたが、体育館及び市民センターは耐震性の問題を抱えており、その他施設についても老朽化が進む一方で、研修室や会議室、事務室等の各施設において機能が重複することによる非効率な施設運営や稼働率の低さが課題となっていた。また、施設の利用について子連れや子どもみの利用が敬遠されていたことや、そうした利用者が施設の利用を遠慮していることにより利用者層が固定されていることも施設稼働率の低さにつながっていた。
- こうした課題を克服し、大野地域に更なる賑わいを創出するため、子育て世代をターゲットとした複合施設に再編し、様々な利用者が気兼ねなく訪れることができる交流の場を目指して検討を進めた。検討を進めるに当たって平成30年6月に「筏津地区公共施設再編基本構想」を、平成31年3月に「筏津地区公共施設再編基本計画」を策定した。

### ●計画策定時のまちづくりの課題

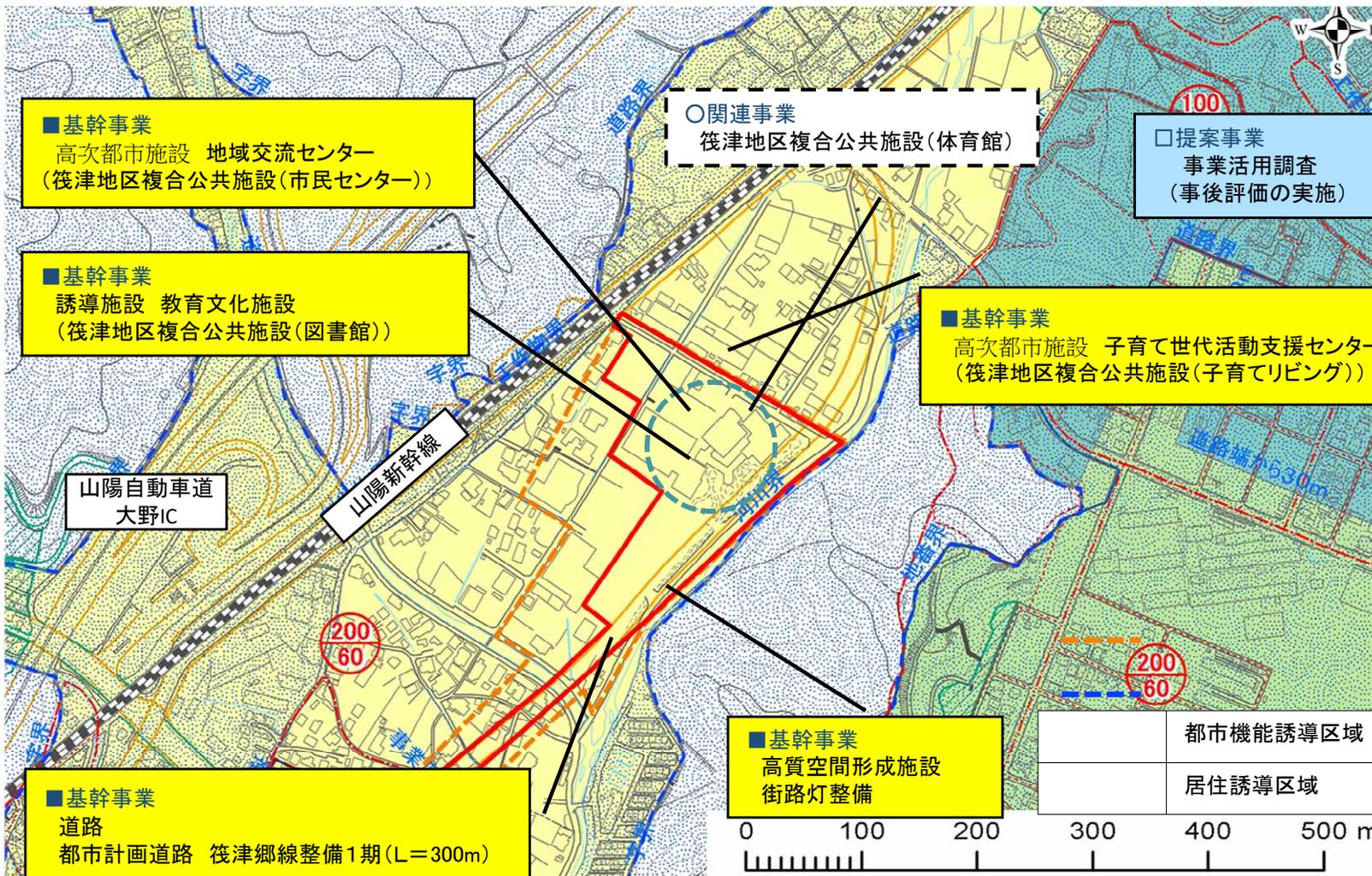
- 従前施設群は、子どもや子育て世代の利用が少ないため、利用者層の拡大と子ども・子育て世代の居場所づくりが求められていた。
- 従前施設群で諸室（会議室・研修室・事務室・トイレ等）が重複しており、非効率な運営となっているため、適切な機能・規模への再編による効率的な運営と財政負担の軽減が求められていた。
- 大野地域を網羅する大野ハートバス3ルートの中継点でありながら、公共交通によるアクセスが不便なため、都市計画道路（筏津郷線）の整備とバス交通のダイヤ・ルートの再編により、利用者の利便性向上と地域活性化が求められていた。

## 2 廿日市市大野筏津地区のまちづくりの概要

公表資料



- ◆事業概要：老朽化した体育館、市民センター及び図書館を、新たに子育て支援の機能を追加した複合施設に再編し、施設のコンパクト化と機能向上を図るとともに、道路整備と公共交通再編により利便性を向上させることで、交流を促進し、魅力あるまちづくりを目指す。
- ◆事業主体：廿日市市 ◆面積：3.1ha ◆交付期間：令和元年度～令和5年度 ◆立地適正化計画公表：平成30年3月
- ◆全体事業費：5,099百万円 ◆交付対象事業費：3,262百万円（国費：1,631百万円） ◆国費率：50%



広島圏都市計画区域

凡 例		
都市計画区域	4,759ha	
市街化区域	2,099.1ha	
	容積率(%) 建ぺい率(%)	面積(ha)
第一種低層住居専用地域	0.05 0.15	579.5
第二種低層住居専用地域	0.10 0.20	17.8
第一種中高層住居専用地域	0.15 0.25	270.3
第二種中高層住居専用地域	0.20 0.30	58.4
第一種住居地域	0.25 0.35	651.2
第二種住居地域	0.30 0.40	11.3
準住居地域	0.35 0.45	2.8
近隣商業地域	0.40 0.50	131.9
商業地域	0.50 0.60	48.3
準工業地域	0.60 0.70	201.2
工業地域	0.70 0.80	126.4
市街化調整区域	0.80 0.90	2,659.9

臨港地区  
都市計画道路  
都市計画公園  
下水道施設  
その他の都市施設  
宅地造成工事規制区域  
市街地開発事業  
地区計画区域

凡 例

■	基幹事業
□	提案事業
○	関連事業

## 4 事後評価の結果について

成果の達成度評価について

# 4 事後評価の結果について

## ■成果の達成度評価について(事後評価シートP1 様式2-1) 様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	広島県	市町村名	廿日市市	地区名	廿日市市大野筏津地区		面積	3.1 ha
交付期間	令和元年度～令和5年	事後評価実施時期	令和6年	交付対象事業費	3.262 百万円	国費率	0.5	

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 高次都市施設・地域交流センター(筏津地区複合公共施設(生涯学習機能→市民センターへ名称変更)、高次都市施設・子育て世代活動支援センター(筏津地区複合公共施設(子育てリビング)、中心拠点誘導施設(筏津地区複合公共施設(図書館機能))、高次都市施設(既存建物解体(面積按分))道路(筏津郷線整備1期(L=333m))、地域生活基盤施設(情報板(都市サイン))、高質空間形成施設(街路灯整備)						
		提案事業	なし						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(情報板(都市サイン))		削除/追加の理由		民間提案により、情報サインからデジタルサイネージ(複合公共施設内へ設置)へ変更。		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
		提案事業	高次都市施設(既存建物解体(面積按分))				既存建物解体費は、新しい建物の床面積で按分し、各施設の整備費に追		
	新たに追加した事業	基幹事業							
	提案事業	事業活用調査(事後評価の実施)						事業の効果、事業手法の検討の為、事後評価を追加。	影響なし
交付期間の変更	当初	変更なし		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし			
	変更	変更なし							

○: 評価値が目標値を上回った場合  
 △: 評価値が目標には達していないものの近年の傾向よりは改善していると認められる場合  
 ×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善が見られない場合

指標	単位	従前値 基準年度	目標値 目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期			
				モニタリング	評価値							
指標1	子ども・子育て世代の利用者数	人/年	38,485	H29	59,669	R5	○	114,811	○	あり	複合公共施設の整備により、子育てリビングや子ども図書館が一体となったことから、魅力アップし、新たな利用者を取り込むことができ、利用者層の拡大に繋がった。	-
指標2	保育や子育ての支援など子どもが健やかに育つ環境づくりへの満足度(大野地域)	満足度 (2.0~4.0)	2.93	H29	3.06	R5	○		○	あり	子育て支援などの環境が整備したことにより、子育て世代の満足度が向上した。	-
指標3	大野ハートバス(公民館前バス停)の乗降者数	人/年	23,152	H30	26,162	R5	△		△	あり	自家用車への移動手段の転換によるバス交通手段高齢者の外出頻度の低下が大きく影響したものと考えられた中、駐車場の拡大と併せ道路整備を行ったことにより、自家用車による利便性が高まり、駐車場不足が生じる程の減少は抑制された。	R6年度内 (R6.10.19(改定)) 10,728人

新規事業を実施

26%削減効果

「目標を達成した」とみなして評価

指標	単位	従前値 基準年度	目標値 目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期			
				モニタリング	評価値							
その他の数値指標1	複合公共施設における新たなイベント企画数	件/年	-	-	-	48	○		○	あり	民間事業者ならではの子どもから高齢者まで幅広い世代の交流や賑わいが創出された。	-
その他の数値指標2	利用者1人当たりの公共施設維持管理費	円/人	603	H30	-	445	○		○	あり	施設を複合化・効率化することにより、施設の利便性や魅力がアップし、固定的な利用から不特定多数の幅広い年齢層の利用へと拡がりを見せ、利用者数が増加したことにより、1人当たりの維持管理費が削減した。	-

4) 定性的な効果発現状況  
 ・子育て世代から高齢者まで多様な世代が集う拠点施設が整備されたこと、多様なイベントが開催されたことにより、施設利用者同士の新たな交流が生まれている。  
 ・子育てリビングは、幅広い年齢層に対応した遊具に加え、子供用トイレや軽食コーナー(キッチン)等の設備も整備されていることから、利用者の満足度が高く、リピーターも多い。  
 ・ロビーを広く配置したことや青少年サロン、屋上庭園、イベント広場等自由に利用できるスペースを整備したことにより、不特定多数の児童生徒から高齢者まで幅広い利用へと拡大している。

5) 実施過程の評価	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
		モニタリング	評価値	
モニタリング	・施設整備期間については、外部委託方式によりモニタリングを実施 ・維持管理運営事業については、特定事業契約に基づき、年度四半期毎に事業者セルフモニタリング及び市(評価委員会)モニタリングを実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた	-	・維持管理運営事業については、継続して実施する。
官民連携による取組	・複合公共施設は、DBO方式(官民連携)を導入し、設計・整備、維持管理運営を実施	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	・維持管理運営事業については、今後もアンケートやヒアリングを実施し、市民の意見を聞きながら、民間のノウハウを活かした魅力ある事業を展開し、新たな利用者やリピーターを確保していく。また、より安全で快適に利用しやすい環境、サービス提供に向け、施設保全を前提とした維持管理を行う。
持続的なまちづくり体制の構築		都市再生整備計画に記載し、実施できた	-	
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	-	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-	
		都市再生整備計画に記載し、実施できた	-	
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	-	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-	

■成果の達成度評価について

参考資料

【指標1:測定結果】

指標1: 子ども・子育て世代の利用者数(人/年)

従前値: 38,485(人/年・H29) ⇒ 目標値: 59,669(人/年・R5)



評価値: **114,811**(人/年) ⇒ 達成度: 「○」

	子育てリビング	こども図書館	合計
R5利用者数	52, 545人	62, 266人	114, 811人

※「子育てリビング」の利用者数は、子育て支援センター(プレイルーム・親子交流コーナー等)放課後児童クラブの利用者数の合計

※イベントや予約が不要なロビーなどの利用者数については測定不能なため、評価対象となる利用者数には含まない。)

■成果の達成度評価について

参考資料

【指標2:測定結果】

指標2: 保育や子育ての支援など子どもが健やかに育つ環境づくりへの満足度(大野地域)(2.0~4.0)

従前値: 満足度 2.93(H29) ⇒ 目標値: 3.06(R5)



評価値: 満足度 **3.28** ⇒ 達成度: 「○」

◆R5年度まちづくり市民アンケート調査結果報告書(令和6年3月)より

順位	凡例	NO	大野地域	満足度		重要度		ニーズ度	分類	満足度(H29)	
				値	順位	値	順位			値	順位
27位		1	一人ひとりを大切にする人権が保障された社会づくり	3.22	9位	4.28	16位	1.06	B		
28位		2	家庭・地域・職場などあらゆる分野において男女が共同して参画する社会づくり	3.05	32位	4.11	30位	1.06	D		
48位		3	地域・職場などあらゆる分野において外国人と共生する社会づくり	3.08	23位	3.78	48位	0.70	C		
34位		4	青少年の健全育成に向けた活動の場や機会の提供	3.12	20位	4.13	28位	1.00	B		
35位		5	生涯学習への支援や学習機会の提供による市民がいつでも学べる環境づくり	3.08	24位	4.04	33位	0.96	C		
24位		6	学校施設の整備による安心・安全な教育環境の確保	3.31	3位	4.42	9位	1.11	B		
11位		7	確かな学力とたくましく生きる力を育む学校教育体制・内容の充実	3.17	15位	4.43	7位	1.26	B		
22位		8	障がいがある児童・生徒への特別支援教育の充実	3.21	13位	4.38	11位	1.16	B		
43位		9	スポーツ施設の整備及び活動の支援	3.22	10位	4.04	34位	0.82	C		
46位		10	文化施設の整備及び活動の支援	3.22	12位	3.99	38位	0.78	C		
21位		11	市民が健康に生活できるための支援	3.16	16位	4.33	13位	1.17	B		
5位		12	医療機関や救急医療体制の充実など安心して生活できる体制づくり	3.09	22位	4.53	3位	1.44	B		
18位		13	保育や子育ての支援など子どもが健やかに育つ環境づくり	3.28	4位	4.48	5位	1.21	B	2.93	13位
10位		14	介護保険サービスなど高齢者や家族への支援	3.16	17位	4.42	8位	1.26	B		

## ■成果の達成度評価について

### 参考資料

【その他の指標1:測定結果】

#### その他

指標1: 複合公共施設におけるイベントや講座などの企画数(件/年)

従前値なし⇒目標値(なし)



事業者独自事業

評価値: **48**(件/年) ⇒ 達成度: みなし「○」

#### ※本指標を取り上げる理由

本事業により新設した複合公共施設(まるくる大野)において、様々な講座やイベントなどが開催され、本計画の目標である「さまざまな機能の複合化による市民活動・生涯学習活動を通じた新たな交流・賑わいの創出」の成果として相応しいと考えられる。

## ■成果の達成度評価について

【その他の指標2:測定結果】

### 参考資料

#### ※本指標を取り上げる理由

施設利用者数と連動する1人当たりの経費額を指標とすることで、機能集約(複合化)と民間のノウハウを活用した一体運営による「効率的で魅力ある施設運営」を測るうえで適切であると考えられる。

#### その他

指標2: 利用者1人当たりの公共施設維持管理費(円/人)

従前値: 603(円/人) ⇒ 目標値: なし

※従前施設と新施設の施設規模や維持管理運営経費規模に格差があること、新たに子育てリビングを設置したことにより、比較検証が困難なことから、目標値については未設定



26%の削減効果

評価値: **445**(円/人) ⇒ 達成度: みなし「○」

## ■ 成果の達成度評価について

## 参考資料

(従前値)

施設名	維持管理費	利用者数	1人あたり維持管理費
図書館	58,540,651円	72,697人	805円
体育館	13,909,394円	54,922人	253円
市民センター	22,941,406円	30,701人	747円
計	95,391,451円	158,320人	603円

(評価値)

施設名	維持管理費	利用者数	1人あたり維持管理費
全施設	226,011,500円	506,837人	445円
市費負担	(指定管理料) 197,239,667円	506,837人	389円

※指定管理料の額は、維持管理運営費にかかる支出総額から施設利用料等を控除した額となる。

■成果の達成度評価について

参考資料

【指標3:測定結果】

指標3 大野ハートバス(公民館前バス停)の乗降者数(人/年)

従前値: 23,152(人/年・H30) ⇒ 目標値: 26,162人(R5)



評価値: **8,484**(人/年・H5) ⇒ 達成度: 「**△**」

減少から増加傾向には転じている。

○大野ハートバス(公民館前バス停)の乗降者数

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
乗降者数	23,152人	17,296人	7,330人	5,135人	3,700人	8,484人
利用実態調査 (平日)	72人	54人	23人	15人	12人	24人
利用実態調査 (平日)	26人	20人	7人	10人	2人	20人

【参考】大野ハートバス全路線

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
乗降者数	197,520人	194,997人	142,380人	147,397人	171,508人	196,350人

※全路線の乗降者数は、コロナ禍前までに回復しているが、当該バス停における乗降者数については、コロナ禍の影響とともに、施設整備期間中における活動場所である代替施設への移動手段として自家用車等への転換を余儀なくされ、そのことが定着したことが要因と考えられる。

## ■効果発現要因の整理

## 参考資料

【指標3:測定結果】



## 5 効果発現要因について

■効果発現要因の整理(事後評価シートP10 添付様式4-②)

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
多世代活動交流センター維持管理運営会議	地域振興部まちづくり支援課 地域振興部スポーツ推進課 健康福祉部こども課 健康福祉部子育て応援室 教育部はつかいち市民図書館	令和6年4月から毎月1回実施	公共施設マネジメント課 (都市再生整備計画事業主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標1		指標2		その他の数値指標1		その他の数値指標2	
		指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
			子ども・子育て世代の利用者数		保育や子育ての支援など子どもが健やかに育つ環境づくりへの満足度(大野地域)		複合公共施設におけるイベント開催回数		利用者1人当たりの公共施設維持管理費
基幹事業	道路(筏津郷線整備1期) 高質空間形成施設(街路灯整備) 高次都市施設 地域交流センター(筏津地区複合公共施設(市民センター)) 高次都市施設 子育て世代活動支援センター(筏津地区複合公共施設(子育てリビング)) 誘導施設 教育文化施設(筏津地区複合公共施設(図書館)) 既存建物解体(面積按分)	○ △ ○ ◎ ◎ -	複合公共施設の整備により、新たに子育てリビングや子ども図書館を一体的に整備したことから、特に子育て世帯や児童生徒にとって施設の魅力がアップし、そうした新たな利用者を取り込むことができ、利用者の増加につながり、従来にはない、新たな賑わいを創出することができた。	○ △ ○ ◎ ◎ -	子育てリビングや子ども図書館の複合整備、さらに、複合施設の強みを活かした機能連携サービスを提供することにより、子育て世帯や児童生徒等新たな利用者層を得て、その利用が一定程度定着したことにより、子育て世代にとって魅力的な環境、快適性が整ったことがあった。また、子ども連れや児童生徒が気軽に利用できる環境を提供していることから、満足度の向上につながっている。	○ △ ◎ ◎ ◎ -	各施設において、従来の事業を継承するとともに、民間事業者のノウハウを活かした新たな講座やイベントが開催され、子どもから高齢者まで幅広い世代の交流や賑わいが創出された。	○ △ ◎ ◎ ◎ -	施設を複合化、効率化することにより、公共施設維持管理費の削減に努めるとともに、子育てを支援する機能を新設し、施設の有効性や魅力をアップしたことにより、従来施設のような固定的な特定多数の利用から新たな利用者層を獲得し、不特定の市民等が多数利用する施設へと変化した。これにより、施設利用者数の増加につながり、利用者1人当たりの維持管理費の削減を図ることができた。
提案事業	事後評価の実施	-	また、官民連携手法を導入したことにより、これまでにない施設意匠や魅力あるサービスが提供され、利用者数の増加につながった。	-		-		-	
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	サービス向上に向けて、利用者の意見を取り入れながら、複合施設の優位性を活かした施設運営や幅広い利用者層にとって興味と新鮮味のある事業を展開し、利用者の定着・増加、新たな利用者の発掘に努め、持続可能な賑わいを創出していく。	左記の取り組みを行うとともに、市の母子保健や地域の子育て支援団体等とともに連携を深めながら、シームレスな子育て支援環境の充実を図り、子育てしやすく、子育て世帯に選ばれる地域づくりを進めていく。	さらに魅力ある集客イベントを継続して実施するとともに、SNS等を活用した積極的な情報発信により参加者を増加させる。また、施設の利用者や地域住民・団体等と連携・協働等により、持続可能な運営体制の構築を進める。	利用者数を際限なく増加させることは施設の利便性や快適性を損なう恐れがあることから、一定程度の利用者数の増加をコントロールしながら、安定的な利用料収入を得るための事業展開や効率的・効果的な施設運用を行うとともに施設の予防保全に努め、施設の維持経費の削減を図る。

参考：全館の利用状況

■効果発現要因の整理

参考資料

■令和5年度 まるくる大野入館者数

月	施設利用者数	市民センター	図書館			子育てリビング	体育館				その他		
			その他	一般図書	子ども図書		トレーニング室	アリーナ	多目的フロア	テニスコート			
4月	34,873	2,118	11,924	954	6,582	4,388	4,050	5,126	1,326	2,715	843	242	11,655
5月	34,748	1,856	11,859	949	6,546	4,364	3,860	5,483	1,681	2,632	901	269	11,690
6月	43,037	3,093	14,617	1,169	8,069	5,379	3,749	6,255	1,582	3,150	1,163	360	15,323
7月	42,310	2,931	14,284	1,143	7,885	5,256	5,138	6,690	1,863	3,140	1,082	605	13,268
8月	43,976	3,509	14,908	1,193	8,229	5,486	5,425	7,095	1,959	3,859	1,081	196	13,039
9月	43,468	2,813	14,782	1,183	8,159	5,440	4,874	6,888	1,987	3,434	1,216	251	14,111
10月	48,611	3,886	16,623	1,330	9,176	6,117	4,407	8,216	1,896	4,027	2,032	261	15,479
11月	45,158	2,597	15,406	1,232	8,504	5,669	3,865	8,735	1,867	3,632	2,965	271	14,555
12月	37,151	2,467	13,003	1,040	7,178	4,785	3,415	6,000	1,811	2,788	1,140	261	12,266
1月	34,194	2,388	11,266	901	6,219	4,146	3,710	5,207	1,910	2,099	971	227	11,623
2月	40,463	3,084	10,617	849	5,861	3,907	4,271	7,160	2,218	3,075	1,566	301	15,331
3月	58,848	3,347	19,912	1,593	10,991	7,328	5,781	8,108	2,284	3,789	1,782	253	21,700
計	506,837	34,089	169,201	13,536	93,399	62,266	52,545	80,963	22,384	38,340	16,742	3,497	170,039
従前施設	168,583	① 34,926	76,076		②		④	57,581		③			⑤

※「従前施設」の数値は、基本構想の利用者数を引用

- 利用者数の増加要因は、従前施設の**固定的な特定多数の利用から、未利用層であった、新たな利用者である子育て世代や児童生徒の利用が増加したことによる。**
- 従前の利用者数と比較すると
  - ①「市民センター」は従前と**同水準**
  - ②「図書館」は、新施設の一般図書だけを比較した場合でも、**1.3倍**の増加し、図書館自体の魅力がアップしたと評価できる。これに加え、**新たに設置した「子ども図書館」や「その他」(PC・ビジネスコーナー、スタディーコーナー)の利用が多くあった。**
  - ③「体育館」は、従前施設と同種の機能であるアリーナ、多目的フロア、テニスコートは**同水準**であるが、新たに設置した「トレーニングルーム」の利用が**増加要因**となっている。
  - ④「子育てリビング」(子育て支援センター、放課後児童クラブ)は、新施設に新たに設置した施設で、**増加要因の一つで、従前の未利用層**でもある。
  - ⑤その他、測定が不能な「その他」利用で、市民センターや体育施設、図書館、子育て支援施設のような施設機能の利用を目的とした者以外の利用者で、**児童生徒の放課後等の居場所**として、また、市民の待合せ場所や居場所として、これまでの未利用層であった新たな利用者で、全体の30%を超える利用を得ている。

■効果発現要因の整理(事後評価シートP10:添付様式4-②抜粋)

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3											
指標名		大野ハートバス(公民館前バス停)の乗降者数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(筏津郷線整備1期)	△	バス利用については、道路環境整備により、交通利便性を高めることはできたが、バス利用者の拡大には至らなかった。 主な要因として、コロナ禍の影響によるバス交通手段分担率や高齢者の外出頻度の低下とともに、施設整備期間中における活動場所である代替施設への移動手段として自家用車等への転換を余儀なくされ、そのことが定着したことが要因と考えられる。 そうした中、駐車場の拡大と併せ道路整備を行ったことで、自家用車による利便性が高まり、駐車場不足が生じる程の利用につながっている。	III									
	街路灯整備	-											
	筏津地区複合公共施設(市民センター)	△											
	筏津地区複合公共施設(子育てリビング)	△											
	筏津地区複合公共施設(図書館)	△											
	既存建物解体(面積按分)	-											
提案事業	事後評価の実施	-											
関連事業													

改善の方針 (記入は必須)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス路線の利便性(路線の効率化、定時性)の向上のため、<u>次期道路整備(第II期都市計画道路(筏津郷線)整備)</u>に取り組む。</li> <li>・また、バス利用促進に向けたソフト対策(<u>モビリティ・マネジメント等</u>)の強化を図る。</li> </ul>			
------------------	---	--	--	--

## 7 総合評価

### 指標の達成度

- ・当初計画で設定した3つの指標及び追加で設定した2つの指標について、概ね達成できた。
- ・目標値に達しなかった1つの指標については、外的要因（コロナ禍）により、非常に達成困難な状況であったことや今回実施した整備区間は当該事業（都市計画道路整備事業）の中間に位置することから成果として発現しづらい区間でもあり、次期整備区間が完了することで効果が発現することが見込まれることも含め、概ね達成できていると評価することができるものとする。

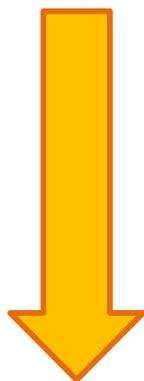
### 筏津地区公共施設再編計画の実現

- ・公共施設の複合化及び新たな機能を付加するとともに、官民連携手法の導入により、これまでにない魅力的な施設やサービスを提供することで、新たな利用者層にまで利用が拡がり、利用者数が従前の3倍と大きく増加した。
- ・特に、本事業の基本構想から基本計画で定めたメーンターゲットであり、これまで利用が低く、未利用者層であった子育て家庭や児童生徒の利用が顕著に増加し、市民の居場所と子ども達の居場所づくりができ、同計画の目的を達成することができていると考える。

### 都市再生整備計画の実現

- ・本事業は、「拠点の形成による持続可能なまちづくり計画」に位置付けられ、大野地域の地域拠点、地区拠点として本事業で整備した施設を都市機能として誘導（建替え）し、各種サービスを効率的に提供するものであり、市民の文化活動や健康づくりの拠点として、さらに、子育て支援の拠点としての拠点性が高まり、子どもから高齢者まで全世代の市民の交流の機会と賑わいを創出しており、本市の地域特性を活かしたまちづくりを推進することができていると評価することができるものとする。
- ・以上のことから、本事業は都市再生整備計画事業としてその効果が発現し、適切に事業が実施できていると評価できるものとする。

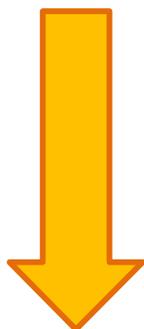
11月29日 都市再生整備計画事業評価委員会



本日の審議内容をふまえ事後評価シートを事務局で再整理

(答申後)

事後評価結果を国へ報告



国が事後評価結果を確認

3月末

事後評価結果を公表